

酒米の安定供給を起点とした連携の取組

- ・酒米の安定供給を起点に、生産者・酒造会社・国税局が連携して課題共有を図った取組。
- ・酒米の生産から酒造・輸出に至る流れを通じ、岡山県産酒米の安定供給に向けた論点の明確化。

○ 施策分類

米政策、輸出促進

○ きっかけ・背景、課題の把握

岡山県は、雄町米や朝日米などの酒造原料米の重要産地を抱える一方、酒米生産は主食用米に比べ栽培負担が大きい。酒造会社の調達も需要動向に左右されやすいという課題がある。

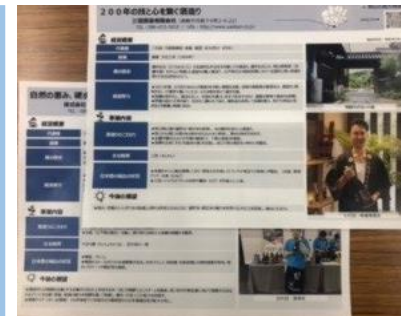
○ 取組の内容

生産者からは、栽培の難しさがある中でも伝統品種の生産に誇りを持って取り組んでいる実態が分かった。酒造会社からは、岡山県産原料を強みに、国内に限らず輸出のための安定的な原料確保が重要だと分かった。その後、国税局と、県拠点が合同で酒造会社との意見交換を実施。（合同意見交換 10月以降4件）

○ 効果・成果、今後の方向性

今回、酒米生産者と酒造会社が互いの課題や需要動向を具体的に共有し、酒米の安定供給に向けた論点を明確化できた。

今後は、岡山県産酒米の安定供給を基盤に、酒造会社、飲食店、消費者を含めた岡山県産の認知度向上を図り、産地・酒造・消費が好循環する取組に発展させる。具体的には、日本酒に合う地元産食材（ジビエ肉、料理等）や、備前焼などの器と組み合わせた提案を行い、岡山の酒の魅力を総合的に発信していく。



岡山県拠点では、県内の農林漁業者や関連産業の取組のうち、特徴的な情報を取組事例「岡山の魅力発信」としてHP掲載

(上) 朝日米の圃場
(下) 酒米勉強会参加

体制図

